



居心地のよい空間

—活用してほしい「図書館」—

昭和音楽大学附属図書館

館長 酒巻和子 教授

昭和音楽大学附属図書館へようこそ！ 新入生の皆さんは、図書館ツアーや OPAC ガイダンスの後、それぞれ実際に図書館を利用し始めた頃でしょうか。

以前からの利用者の方々も、図書館が一部リニューアルしたことにすでにお気づきかもしれません。まず、視聴覚ブースの配置が大きく変わりました。その手前には、ひとりで落ち着いて利用できる閲覧席「個人キャレル」も新設されました。一方、入口正面カウンタの左奥にある閲覧コーナーは、テーブルと椅子がパステルカラーのしゃれたデザインに変わり、憩いの場とも呼べるようなとても明るい雰囲気になりました。その奥にあるグループエリアも部屋ごとに優しいテーマカラーで統一されました。ここは、複数の学生が様々な情報資源を用いながら一緒に学ぶという新しい学修スタイルを実現する場を提供するものです。

これらはすべて、大学図書館の使命は第一に学生の学修支援にある、という基本に基づいています。これまでも、本学図書館は新しい形での情報提供を充実させてきました。OPAC による資料検索だけでなく、さまざまな契約データベースも充実していますので、確認してください。学外からも 24 時間利用できるサービスを、在学中にぜひ十分に活用していただきたいと思います。



①②グループエリア（アクティブラーニングルーム） ④ブラウジングコーナー
③閲覧室

でもやはり、図書館利用の最大の魅力は、所蔵資料を実際に手にとって見られること、そして職員のサポートが得られること、にあるのではないのでしょうか。レポートに苦戦したり、楽譜の選択に困ったりしていませんか。レファレンスカウンタに気軽に声をかけてみてください。そして私が特にお薦めしたいのは、館内利用に限られる資料を敬遠せずに見てみることです。個人ではなかなか入手しにくい大規模な事典などの参考図書や、重要な作曲家の校訂版楽譜全集などは、先人の研究成果に基づく知的財産そのものです。探していたものが見つかる喜びはもちろん、予想以上の新しい発見や楽しい出会いがあるに違いありません。

図書館職員たちは、利用者の皆さんが図書館に親しみをもって足しげく通ってくださるよう、さまざまなアイデアを練っています。図書館公認のキャラクター、ショウワームもそのひとつですし、季節ごとのささやかなイベントも用意しています。ポイント制度の導入も、ルールを守って大切な資料を利用する習慣を身に付けてもらうために工夫されたものです。図書館は、ひとりひとりの要望に応え、学ぶ意欲を支援するために、さらなる充実に向けて努力しています。ご一緒に居心地のよい空間を作っていきましょう。



酒巻和子 教授